



代表取締役社長
安永 暁俊

ゆく河の流れは絶えずして

いよいよ新年度が始まりました。今年は9名の新入社員を仲間として迎え入れ、本当に嬉しく思っています。新しい仲間とともに、今年度の目標達成に向けて一歩ずつ進みましょう。

今年、久しぶりに安全手帳の中身を一新しました。私の想いの中で、「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず」(方丈記)を引用しました。いつの時代にも「安全」というものは第一で変わりませんが、安全の門をくぐる時の「心がけ」は毎日新たにすべきです。つまり、不変に見えることも、実は変化し続けているのです。

最近の社会情勢を見ても、この言葉が浮かんできます。ロシアがウクライナに侵攻してから早一年が過ぎました。自由主義国家への力による現状変更という大きな変化が起きました。日本の私達の日常生活は一見変わりませんが、エネルギー高騰や物価上昇などの変化が起きています。自動車業界は百年に一度の大変革期と言われる

います。百年前の誕生から自動車というものは変わりませんが、安全性も高まり燃費も良くなるなど、その中身は時代によって大きく進化してきました。これからは電動車の普及も本格的に加速し、ガソリン車、ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車など多様な選択肢をユーザーが選ぶ時代になります。バッテリーは、その寿命や航続距離、利便性などの課題解決が必要であり、一方では、水素燃料やカーボンニュートラル燃料をエンジンで使用する研究も進められています。世界各国の政府の方針と、自動車の技術革新、ユーザーの用途に応じた選択などが絡み合い、大きな変化がまだまだ起こるでしょう。

安永のチャンスとピンチ

世の中の大変化は、当社にとってチャンスでもあり、ピンチでもあります。

エンジン部品セグメントでは、乗用車用エンジン生産は2030年前後にピークを迎えると言われており、今後10年近くは微増します。加えて、産機・農機・船舶用エンジン部品の引き合いや、電動化を受けたアルミ製品の引き合いも増えていて、大きなチャンスとなっています。

機械装置セグメントでは、自動車メーカーのエンジン設備の投資が減少しているのはピンチであり、これを取り切ろうと取り組んでいます。皆さんにもご理解とご協力をいただきながら、大胆な人員配置の見直しを行っています。

環境機器セグメントでは、順調に市場シェアを伸ばしてチャンス拡大となります。

5月には、2023年度からの中期計画3か年を発表します。この中計では技術本部で取り組んできた新技術がいよいよ事業化を迎えており、売上と利益を伸ばしていきます。総じていうと、会

社を取り巻く環境は大きく変化していますが、攻めと守りを明確にして乗り越えていきます。

働き方の変化

会社が目まぐるしく変わる中で、皆さんの働き方にも変化をお願いしています。事業部や部署を異動する方も増えていますが、是非とも新しい職場でも前向きに仕事をして欲しいと思います。

会社人生の中では、自分の希望に関わらず異動することも時にあります。職場が変わって大きな変化を受け入れて飛躍している先輩も沢山います。私が出すのは、生まれてこのかた海外に行つたことがなくパスポートも持ってなかったが海外駐在で活躍された方のことです。ご本人は大変だったと思いますが、変化を当り前だと捉えられれば、新しい環境でも上手く対応できると思います。

私自身も、若いころに管理本部から部品事業部へ移りました。事前に、噂を耳にしてどんな所だろうと恐れを抱きましたし、心配もしました。けれども、実際に行ってみると割と早く馴染んで仕事できました。何事も現地現物で体験しないと分からないものだと感じたことを覚えています。

働き方の変化に対応するには

別の職場へ異動すると、目に見えて仕事環境が大きく変化したなと感じます。しかしながら、同じ職場で仕事し続けても、実は絶えず変化を繰り返しています。全てのことがスピードを持って変わっていく今の時代、皆さんがどこで仕事するにしても、その仕事内容は変化していきます。

変化に対して、皆さんがどう感じるか、どう考

えるかが重要となります。

前々回、物事を見る時にA(0)やD(100)ではなく、B(20)やC(80)で見ましようと思

とで今の事業があります。未知の市場や製品に挑戦する時に、何もわからない(D)と始められませんが、すべてを知ってる(A)では新規性がありません。既知と未知が入り混じる中で、ある程度(B/C)のリスクを取って挑戦してきたともいえます。

より良い2023年度にしよう！

2022年度はコスト削減・活人化プロジェクトに取り組んできました。皆さんのご理解とご協力により、無事に達成できる見通しとなりました。ありがとうございます。

4月からの力強い中期3か年のスタートにあたり、近年のインフレ物価を見据えて、基本給の水準も過去を大きく超えて引き上げ(ベースアップ)を実施しました。賃上げを維持するには、労働生産性の向上が不可欠となります。

皆さんにお願いしたいのは、一人ひとりの生産性を上げることです。身体を効率的に動かすには、手順を見直して同じ動作をより短い時間でこなす。頭を効率的に動かすには、発想を変えて同じ時間でより多くのアイデアを思いつく。そうしたことの積み重ねで、生産性は向上していきます。

会社としても、人への投資に加えて、設備への投資やデジタル化・デジタルトランスフォーメーションを押し進めて、生産性を上げる環境づくりを行ってまいります。

良いチームワークで、2023年度をより良い年にしましょう！



D 100%



C 80%



B 20%



A 0%



ました。自分の仕事について、自信満々(A)もしくは自信喪失(D)の両極端でしか捉えていないと、変化に上手く対応できません。例えば、自分の仕事が万事順調な時でも何か不測が起こるかもしれない(B)、仕事が上手くいかず先が見えない時でも何かチャンスがあるかもしれない(C)、そういう心掛けを持ってさえいれば、取り組んでいる仕事が変わっても対応しやすく、また、仕事自体が変わっても対応しやすくなります。物事は複雑に絡み合い状況は日々変化しますので、AかDといった単純化して考えていては変化に弱いままです。

冒頭、安全の門をくぐる時に、毎朝新たな心掛けをお願いしましたが、皆さんが自分の仕事に取り組むときも毎朝フレッシュな目で見てほしいのです。それが出来れば、エンピツが指の上に固定されている(A)とは感じなくなり、逆に、小さな変化(B)を感じとれます。正常性バイアス(先入観や思い込み)が知らず知らずに大きくならない様に、毎朝リセットをしてほしいのです。

それに加えて変化に対応した後に、自分自身で振り返り(総括)をしてほしいのです。振り返ることで自分だけの知見が積み重なるので、変化が大きいほどに自己の成長にも繋がります。

本日の会議をやるには

前回、本日の会議のやり方について述べました。その前提を少し追加します。

まず、「さん」づけで呼ぶことで、お互いにフラット(平坦)な立場で会議に参加する。次に、自分の考えを周りと共有する。議論するには、場に自分のアイデアを出さないと始まりません。ということ、自分が知っている情報を周りと共有すべきなのか、常に客観的に見つめて判

未知の分野に挑戦するには

時代の変化は激しいですが、安永の挑戦は続きます。私たちの先人がリスクを取って挑戦したこ

断すべきなのです。意外とこれが出来ない人が多くいます。自分の頭の中にしまっておいては、何も議論が生まれず、チームワークも生まれません。自分のアイデアを色んな人に揉んでもらうことで、より良いアイデアに繋がります。

最後に、建設的な議論をする。実は、議論する時にもBやCを意識することが必要です。例えば、自分のアイデアは間違っていない(A)と考えると、議論の時に過剰に攻撃したり防御したりしがちです。自分のアイデアに全く自信がない(D)と考えると、何もしゃべらずに座っているだけになります。そうではなくて、自分のアイデアに自信あるけど見落としがあるかも(B)、検討不足だけこの部分だけは考えた(C)という意識があれば、相手の批判は悪口には聞こえません。建設的な議論にはBやCの意識が必要になるのです。

良いチームワークには

前回、チームで仕事することを述べました。チームワークを作るには、人との関係、人との距離感が大事になります。

仲良くべったり(A)、仲悪く口も利かない(D)は良くないですよ。理想的なのは、親しき中にも礼儀あり(B)、仲良くはないけど意見は言いあえる(C)という関係です。議論をするには、人との距離をBやCに保っておく必要があります。また、緊張感が全くない状態(A)、過度に緊張した状態(D)では、チームで議論が進みません。適度な緊張感(B/C)が活発な議論に繋がります。